

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
31	川崎市立小倉小学校	木下孝文

学校教育目標	今年度の重点目標
○自分をつくる ○ともに学ぶ ○成長を感じる	・子供たちを丁寧に見取り、適切な支援、授業改善を行う。 ⇒学習意欲を高める それぞれの子供たちの居場所づくり ・生活科・総合的な学習の時間の研究推進校としての研究推進(協働的な学び 仲間と共に解決) ・職員自身が人権感覚を磨き、いじめや暴力は許さない学校環境の構築・子供たちが安心して学べる環境づくり(登下校の安全等⇒学校,保護者,地域との連携)創立70周年記念式典準備等 ※良いところを認め伸ばす

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 自主、意欲、主体的判断 ○わかる授業・楽しい学び ○授業における居場所の確立	・授業力向上(授業改善) 一人ひとりを生かす授業 小教研への積極的な参加 ICTの活用の推進(ステップ3) ・子どものみとり力向上 一人ひとりのよさを見出し、後押ししていく ・協働体制の強化 教科担任制の適切な運用 ・多様な学びの場の保障	・授業改善については、授業研究会・研修会への積極的な参加や校内研究の成果の還元等で実現を図ってきた。校内研究や教育委員会の巡回指導、個々の提案授業の実践等により個々の授業力は改善傾向にある。・ICTの活用については、無理なく授業で活用されてきている。ステップ3での社会課題の解決については、総合的な学習の時間を軸にして取組みつつある。 ・教科担任制については、新たに体育と英語で実施し専門性を生かした授業が展開された。多様な学びの場は課題が残る。	・常に学ぶ意識をもち授業研究会や研修会に参加できるように環境を整える。 ・子供の丁寧な見取りと適切な支援,外部機関との接続・ICTの活用については、ステップ2をもう一度見直すこと、その基盤の上にステップ3に取り組んでいく。 ・個々の特性や強みを生かした教科担任制をより推進していく。欠員を出さないことと欠員の確実な補充。児童数が1000名を超えてくるため児童支援COの複数配置にしていまいところである。
2 対話、相互理解、協働 ○共生・協働の中に学びの価値を見出す。	・アフターコロナのかかわり方の確認 ・学級経営力向上 ・支援教育Coとの連携を構築 ・児童支援・特別支援教育体制の充実(保護者との連携を推進) ・人権感覚の醸成 ・いじめ防止基本方針の周知と徹底	・無理をしない形でかかわりを広げてきた。ただし全てをコロナ前に戻すというのではなく分散等そのまま取り入れることも検討してきた。 ・支援教育については児童の見取りを丁寧にする、またその見取りに基づいた支援を行う。しっかりと見取り、児童を理解できた時は支援も適切に行えた。・人権尊重教育は定期的に行い、人権意識を高めることができた。 ・いじめ防止基本方針に沿って対応を進めてきた。職員にもいじめに対応するスキルが身に付いてきている。	・感染症対策から得た経験を基により良いかかわり方をGIGA端末の活用も含めて考えていく。 ・常に児童の行動の裏にあるものを探り、「なぜそうしたか」理解し、支援していくことを徹底していく。 ・人権尊重教育については外部機関との連携を深めや研修を積極的にやっていく。
3 学びに向かう力人間性等の涵養 ○成長を次の学習に生かし意欲的に学ぶ ○学びを人生や社会に生かそうとする。	・生活科・総合的な学習研究推進校としての研究を通して学びを次に生かす学習スタイルの構築 学びを生活や社会に生かすことの価値付を丁寧に行う。 ・教育課程の創造と改善	・研究推進校として「学ぶ楽しさを知り、本気で取り組む子」をテーマに研究を進めてきた。探究のプロセス沿って丁寧に学習を進めることによって、自ら課題を発見し、解決していくこと、その学びを次に生かした新たな課題に取り組んでいくという学び方のスタイルを定着することができた。 ・各学年の児童の実態を捉え、その意欲を引き出すような題材を用い、教育課程を創造していく。	・実生活で学びを生かしている場面を適宜取り上げ強化してきた。自ら課題を解決していくことを生活・総合だけでなく各教科でも積極的にやっていく。・地域等と連携しながら児童の意欲を引き出す題材をより多く見付け出し、新たな教育課程を作り出していく。 ・総合的な学習の時間の研究を生かし探究プロセスの中でICTを活用することでステップ3を実現していく。
4 開かれた学校づくり ○子供たちが安心して安全に学べる環境づくり ○10年後20年後を意識した地域との関わり	・保護者・地域との連携を密にして、信頼関係を築き開かれた学校をめざす。 ・校内環境整備・登下校の安全の確保 ・学校教育推進会議の積極的な運用(コミュニティスクールを視野に) 寺子屋との連携・70周年式典準備・PTA任意加入に向けての準備・地域教育会議との連携 10年後20年後を意識して地域とかかわる	・日頃から学校の情報を公開するように努めてきた。学校だよりや学年だより、学級だよりなどが主な手段であるが今後は学校ホームページの積極的な活用が求められている。・校内環境や登下校の安全には、常に気を配り子供たちの安全を担保するように努めた。保護者や交通安全指導員、職員が連携して登下校の安全に取り組んできた。また、学校保健委員会だけがの防止について啓発した。・学校教育推進会議は、R7年の新校開校の際に向けて新しい組織づくりが必要になってくる。寺子屋は、運営委員長を中心として自立した活動を行っている。創立70周年記念式典の準備は予定通り進行している。PTAの任意加入は、R7年度から正式に施行する予定である。	・HPを活用し学校の情報を積極的に配信していく。・校内環境整備については、定期的に丁寧な安全点検を行っていく。登下校の安全については、旗当番の維持、職員の見守り体制の継続、併せて家庭と連携して交通安全指導の強化を図る。校庭開放も適宜実施していく。児童増によるけがの増加について対応していく。 ・コミュニティスクールを視野に入れた準備、創立70周年実施に向けての準備、PTA任意加入に伴う組織の見直し等を進めていく。・様々な機会で子供たちに10年後20年後の自分や地域をイメージして行動するように投げかけてきた。今後も継続していき将来に対して見直しをもって今を生きるようなスタイルを確立していく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
・1000人越えの大規模校になるため人員不足の早期解消を望む。PTAは時代とともに変化していくのを実感した。PTAと学校との連携の在り方を考えていく必要がある。様々な問題を学校だけで解決していくのは難しいので家庭との連携が必要。・児童が増加する中職員のみなさんが取り組みを工夫して子供たちを楽しませてくれている。至る所で子供たちが自ら課題を解決しようとする姿勢が見受けられ成長を感じている。学校教育アンケートには保護者が積極的に回答してほしい。学校の運営が順調に進んでいるので今後も継続してほしい。	・学校教育アンケートの結果は、昨年度とほぼ同様であり、ある程度本校教育活動に対する理解は得られていると思う。ただし、回答率が年々下がってきて今年度は、回答率は約40%であったため今後回答率を上げていく工夫が必要である。生活・総合の研究推進校として課題探求のプロセスを丁寧に指導してきたそこで身に付けた力を他教科にも生かしていけるように指導を継続していきたい。その際にGIGA構想のステップ3を意識して活動していく。(主体的に社会的課題を解決していく)児童数の急激な増加に伴い、けがやトラブルも増えてきているので、今一度職員と問題点を共有し、解決の方向を確認していきたい。子供たちの行動の裏にあるものを理解し、支援していくことを確認していきたい。また、中学校区で連携して各教育課題に取り組んでいきたい。